錦窠菌譜

總說 一

7
13
96

別圖

伊藤篤太郎記

別11
13
9

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』 請求記号 寄別11-9

ガラス使用

伊藤氏藏書

菌譜

錦窠菌譜

總說

一

伊藤篤太郎記

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号 寄別11-9

ガラス使用

伊藤錦窠生介先生遺稿

伊藤篤太郎編

錦窠菌譜

卷之一

昭和廿三年 帝國大學

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号 寄別11-9

ガラス使用

錦窠菌譜題言

家王父、錦窠先生、齢百歳ニ垂ト
シテ、菌（普ク）類ヲ實験シ、群籍ヲ渉猟
シ（テ文園叢談ノ説ヲ蒐集スル）コト多年、或
（諸）書ヲ摸写シ、或（諸）書ヨリ抜萃シ、深ク
明ニシ、或ハ諸（諸）家ノ實物ヲ（描）寫シ、以テ他日ノ
參考ニ資セ（ムト欲セ）リ。自ラ題シテ「錦窠
菌譜」ト曰フ。先生ノ歿後ニ至リ、
余、彼先生坐右（匣）中ヲ捜索シテ草稿若

千冊ヲ得タリ。乃チ之ヲ撿スルニ、頗ル亂雜ヲ極メ、殆ンド蠹魚ノ巢窟トナリ居レルヲ發見セリ。茲ニ於テカ余ハ大ニ之ヲ遺憾トシ、偶〻消夏ノ餘暇ヲ以テ殘片零紙ト雖ドモ、棄ツルニ忍ビズ、悉皆之ヲ白紙ニ貼附シ、假リニ之ヲ製本セシメ、更ニ余ガ臭見ヲモ隨意ニ記入シ置ケリ。庶幾クハ、

以テ先生ノ遺稿ヲ、後世ニ傳フルヲ得ンカ。

明治三十五年夏月

孫　理學博士　伊藤篤太郎　謹識

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号　寄別11-9
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』 請求記号 寄別11-9

ガラス使用

増補

菌類書目

1 △〇菌譜 宋 陳仁玉 著 淳祐乙巳出版 一冊

2 〇廣菌譜 潘之恒 著 全二冊

3 △〇吳 草譜 長州 吳林 息園 著 一冊

〇草譜 息園著

4 △〇怡顏齋菌品 松岡玄達 著 寶暦十一年出版 1761

5 △〇信陽菌譜 市岡智寛 著 寛政己未十一年作 1799 一冊

6 △〇菌史 石原愚者 稿 文化八年作 1811 全部十五巻 内五巻闕

〔文献〕

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』 請求記号 寄別11-9

ガラス使用

7 △ ○ 菌譜 坂本浩然著 天保六年出版 1835

8 △ ○ 菌譜 坂本浩然稿 天保五年作 1834

9 △ ○ 菌譜 二輯 坂本浩然稿 天保

10 △ ○ 本草綱目啓蒙 小野蘭山著 享和三年刊行 1803.

11 △ ○ 本草圖譜 菜部 山城 岩崎灌園常正著

12 △ ○ 黃正圃雜纂 菌部 江戸 井岡洌著 享保年中作 1716-1735

13 △ ○ 鶴山菌譜 野間坦著（井岡洌門人） 全三卷 二百五十八品收入

上下全二冊

全四冊

14 △ ○ 九思堂菌譜 日光 著者年号未詳 壹冊

15 △ ○ 福草考 浪華 夕陽菴水月著 嘉永三年刻 1846 壹冊

16 △ ○ 菌〔譜〕 水谷豐文助六著稿 （物產誌 文化六年刊 1809） 壹冊

17 △ ○ 日本產物志 信濃部下 伊藤圭介著

18 △ ○ 伊勢國朝明郡內菌譜 冊渡修治稿 明治十五年作 1882 壹冊

19 ○ 皇和菌譜 〔草〕 曾尚啓 士孝著 （男石巻 天保五年 1834 跋）

20 △ ○ 溫故齋菌譜 又 蕃我堂菌譜 東都藤成裕著 寫本一冊 （孟佐藤平三郎、名成裕号中陵、又蕃我堂） 1795.

2

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号 寄別11-9

ガラス使用

21 ○菌譜　志村愛助著　菌数五十種ノ着色写生ニ梅園ノ子梅園ノ文政八年作

22 ○梅園菌譜　梅園毛利元善著　文政八年作　1825

23 ○葦譜　著者未詳

24 ○温故齋五瑞編　勝成裕著〔佐藤平三郎名成裕号中陵又著山我堂〕　寛政八年1796作　写本壹冊

25 △○椎葦製造獨案内　著者未詳ノ手記ノ写ノ如シ　伊豆　明治二十七年三鳴館出版1894　壹冊

26 ○菌圖說〔田中房種著ス〕　田ノ字ヲ抜カシ　写本壹冊

27 ○菌譜　著者年月未詳　菌数九十一ヲ写ス着色図後ニ（西村庵休處ト）　写本壹帖

28 △○香葦一覽　丹波修治著　嘉永甲寅　明治五年十月出版　1872　伊藤篤太郎記　一枚

○雀巢菌譜　尾張　雀巢庵吉田平九郎著　写本全一冊

○菌譜　尾張　松井再右衛稿　写本全一冊

○錦窠菌譜　伊藤圭介遺稿　伊藤篤太郎後　写本全十三冊

○庶物寫生菌譜　著者年月未詳　写本全壹冊

○菌類三十二種　彩色圖　著者年月共ニ未詳　写本全壹冊〔植蒔書屋圖書目錄巻之壹　二十二丁表ニ出ツ〕

○香葦播製　年代不詳　泰樹丸著〔植蒔書屋目錄巻ノ三十五丁表〕　写本全壹冊

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号 寄別11-9
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』 請求記号 寄別11-9

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』 請求記号 寄別11-9

ガラス使用

伊藤篤太郎記

帝國圖書館藏

○菌譜

宋陳仁玉著　三枚之大寫本ニテ一枚ハ余カ叔父伊藤謙君ノ遺筆ニテ君ハ錦窠先生ノ孫ニ當リ藥品名彙、植學啓原等ノ著アリ

伊藤篤太郎

○菌品總說

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号 寄別11-9

ガラス使用

画ノ六拾枚

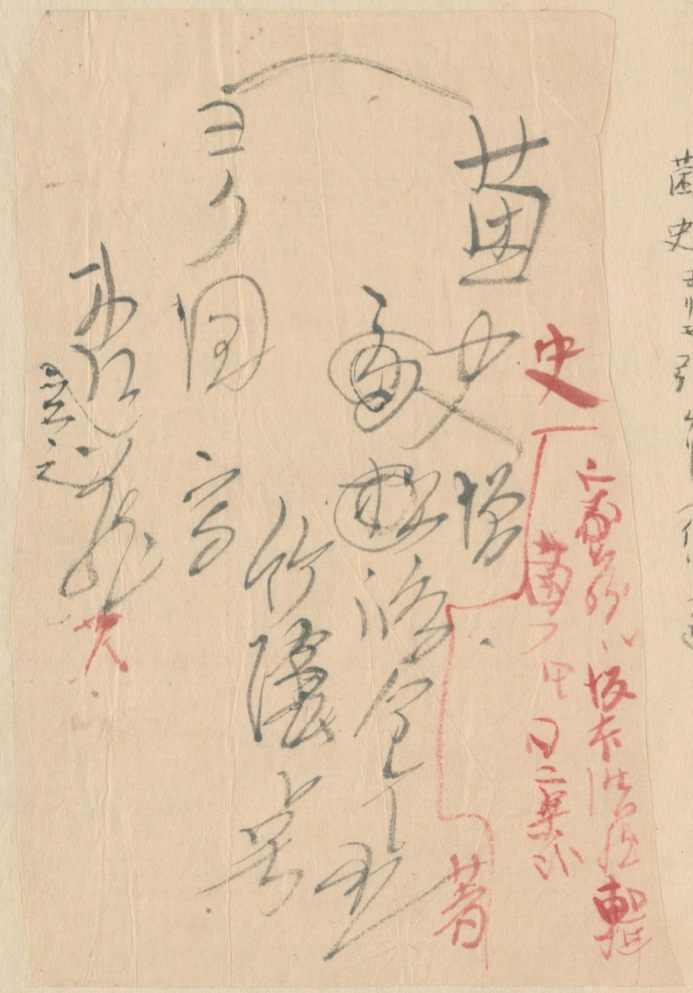
菌史ノ図
巻末ニ附セリ

画料幾何共ニ金拾三弗四ノ一

○ムメタケ　梅枝ニ生ス食用ニ堪ヘタリ
信州松代ノ人云
ニユキタケ　此菌ハ雪中ニ生ス味ヨシ梅タケノ如シ
〃シモフリ　シメジノ類
〃カシコウボウ　此菌ハユキタケト味同シ

○菌部　京都ニ於テ

岩崎ノ本草図譜ノ菌ノ部ハ
皇和薯譜トヨリ引ケリ又信陽菌譜、日光菌譜、
菌史ヨリモ引ケリ（伊藤記）



国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号 寄別11-9
ガラス使用

以下詩從盛坰龍湫

菌譜　宋陳仁玉著　三枚　大二厘ニリ

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号　寄別11-9

ガラス使用

菌類ノ

サツマツ
シロマイ
クリタケ
白チヽタケ
カミタケ
ニギリコ
スタトリイクヂ
ウシノクソ
ハエトリキノコ

イツオホヂ
ガンタケ
又メリタケ
赤チヽタケ
ロウジ
イクチ
ミウセンボ
スドラシ
キツネノヱカキフデ

シロキノコ
ブンドコ
チダケ
ウメタケ
アラロウジ
クロイクチ
エフリコ
テングタケ
シデタケ

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号 寄別11-9

ガラス使用

菌

地產者為菌生者為獨雁來青第一乳腦次紅白黃者有毒不可食誤食者以甘草湯解之凡菌有毛者下無文者熟不熟者懷爛無虫者煮乾喫人無影者俱不可食

安慶府志　卷五

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号 寄別11-9
ガラス使用

たけ

古今歌　北山小笹正通昭とたれかふまよさこちるよもある

拾遺名物　あしびきの山下ふかきふりそのいまつるけ衣あめつん

和歌　本草提要巻四

そみち葉ハ神ふこき入まてもて出ふん時ハくきりとこん人のふめ

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』 請求記号 寄別11-9

ガラス使用

市岡智寛信陽菌譜序

凡名物之可食者不可不精辨也東壁綱目菜部可茹之草一百五種菌類最在其下其為物也雖微然遇有毒者則禍不轉睫也頃市岡君曾應一生之需圖伊那郡中之菌以著此編乃至本艸所逸菌譜所未載之品皆包羅圖遺而不敢舉他邦之菌矣故冒以俚名是稱而未必論漢字當否如何是自非親捜於山林試之良毒加以精辨之熟則不能充民生厨膳之用也是乃非

吉獻之達識聊示同好之士云爾

寛政己未孟秋

信陽 松溪序

小書ノ従之ヶ冊ニ掲入ス

きのこ

和玉菌 クサビラ

勅 名井

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』 請求記号 寄別11-9

ガラス使用

菌類

握々々（土佐方言）胴脂蕈（淡赤）一種唐松々々ノ上ニ
生ズ（ウズ）ル青柑ノ根ギハニ多生ス形南蕈ニ似タリ

（簑）

一甘蕈（甲州方言）田州栗林村猪木林中ニ多生ス土
人猪木ノ字ヲ呼テ之ヲ名ク土甘蕈ノ形石榴実ニ似テ
内黒ク味甘シ也更好テ食フ

○ヲチコツカルヒ　六七月ノコロ原（野）ノ中叢草ノ
中芒根ニ用（生カ）テ生ス其色牙白味佳也濃州ニ云カヤグラ
タケノ類ナルベシ

○ケ子カルヒ　亦六七月ニ生ス状ベニタケニ似タ
リ信州ニケタケト云物ニ類ス

○トベニカルヒ　トベニノ林中或ハ樹上ニ生ス夷人
亦其毒ヲ知テ敢テ食ハズ背白面赭褐色

○ケ子カルヒ　地硬木耳ナリ

○ヤムカルヒ　枯栗木耳ナリ軽虚ニシテ粉白色夷
人以テ火煤トナス

東夷物産志

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』 請求記号 寄別11-9

ガラス使用

菌

生地上夏月雨後濕熱蒸而生有毒中之者用生芝麻擂酒服之愈

太平府志　卷十三

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号 寄別11-9

ガラス使用

菌タケ俗名物ニ本雅注四声字苑等ノ引テ菌ヘタケ
莫大ハキノミ木耳即木菌ナリト注セリタケノ義不
詳俗ニハ菌耳ノ類ヲクサビラヤトイフナリ俗名物ニハ菜蔬
ノ字讀テクサヒラトイフナリ

東雅　七

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』 請求記号 寄別11-9
ガラス使用

蘭葺

たけきのこ　中壷及九花まてなどゝふ小壷又呉服尾紋みてこけと
水上腐木卵をそゝせと云　佐渡ふそみくとふ

たけ　キノタケ、クリタケ、マツタケ

書紀　皇極天皇巻十二丁　倭国言須者苑田郡人之云雲上登苑田山

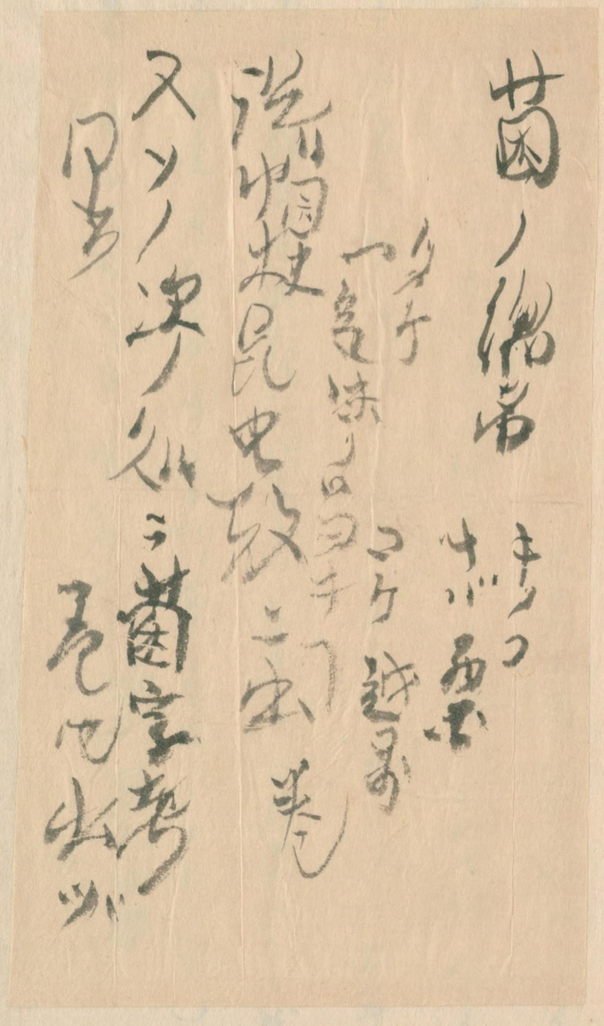
便見紫菌（タケ）云〻　書廿九（天武天皇八年）是年紀伊國伊力郡貢芝草

其状似菌莖長一尺其蓋二圍云〻　拾遺　物まつたけ　あ名きの

山下らつゆぬきてほりそのひまつたけ衣あぶ〳〵又いと

もつきかくらをる哉ふぐらけうつゆ物そなうれ

和菌蕈多久　名菌（タケ）クサヒラ　菌蕈タケ



国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号 寄別11-9

ガラス使用

蕈

猫乙義ありへ〳〵新撰字鏡ニ菌ヲよむハ乳味の義也今俗に腐ル菌ヲみそなどともあるみそ茸のたけるハ菌猫の義古今集の歌詞書ニ云ふるも鈔ニ例あるをいへと夫木集ニ松ちゝぐさとよめるハ西土ハいざしらずたけを石茸まつたけを松茸と出たるをはじめて茸字を用来れる洵然茸あもそれ鹿茸ふとの義ふれハ茸ともいふへきうといへり○化ス毒ありき木ニ生ル茸ハ皆食ふへし和訓栞

（日本紀優名抄ニ菌ヲよむハ乳味の

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号 寄別11-9

ガラス使用

菌

地生者為菌孫炎曰地蕈子郭註似釘蓋今呼土菌可啖也九菌六七月間濕熱蒸生山中者甘滑可食夜有光及煮不熟煮訖湯照人無影者上有毛下無紋御卷赤色有者毒殺人以夏秋間蛇蟲吐涎生也

陽春縣志 高

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号 寄別11-9

ガラス使用

説文に菌は地蕈なり唐韻に蕈音尋菌生木上といふ　玉篇に蕈は地菌なり通雅に郭璞云江東土菌を名つけて蕈と曰ふ云々地蕈を赤地錐といふ　爾雅疏云大かた菌と蕈とは名つく本草に或いは云ふ菌は地生を為菌木生をいふ蛾蛾蛾蛾と　南人蕈といふ陸容菽園雑記云蕈字原甚に従ふ王音の偽張華云江南蒲山郡大樹断倒一春雷ありて本心齋蔬食譜をとるに蕈に従ふ蕈を生ずえを堪とす　當ると蕈に従ふ知是蕈甚一声蓋し菌音より轉じて假借する耳廣東新語に厚肴を蕈といひ薄者を耳といふ菌の莖なく補なるを耳といふ即耳なり可食そのふて食るものは雨陽姐にいふ

枕草葉の除に菜蔬と久佐非良と注しそうさく又

菌の訓よコレタケあり史游急就篇顔師古注に蘑菌一名蘑蕈生東海池澤及渤海章武此蘑蕈之地所生菌也是ヨレタケ一名ハ萩茸といへる丹枕草菌を太夫と注したらいとくふう〇菌字考　二字の後ニ有

きのこ　タケ　たけ

和菌

伊字木菌

勅一名井

ノケ茸 ビラ

伯州大山黒淀茸 淳安
岩茸 陰州大佗岩茸 淳安
香茸 同十津川岩茸 同紀州高野山

葦

即菌曰雷聲茶陳仁玉有譜

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号 寄別11-9

ガラス使用

菌類

下野国塩谷郡

塩原村西山村

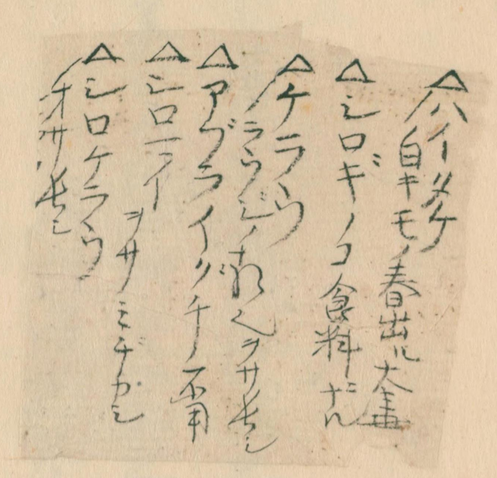
日本地誌提要三

菌

蘑菇舍寧羊肚麥蘗木耳皆菌屬也皆曾不嘗有
而時生于霧雨蜘濕穢之中

乾州府曹縣志曰

一 数蕈ノ菌ノ細注ヲ伝ニ
セヲ出ス各ノ落ヲ通菌蕈
年清国伊ヲ勿ヲ福島山名
菌ヲ故西山湖ノ頃味ヲ
香味推算ヲ勝ノ沈五月ヲ覚ノ春生ヲ菌
清ヤ和ヲ見ト満在名
見ヲ何来ヲ生菌ヲ


△イイ糸ケ
白キモノ春出大金
△シロギノコ食料だん
△ケラウ
ラウビ ホンクサキン
△アブラライクチノ香
△シロニライ ヲサミチカン
△シロケラウ
オサキン

○黃

黃一名菌、俗謂之菰、有五色、山氣蒸而生、下有分
辨鮮美可食、無辨者食之殺人、中其毒、擣地漿飲之可解、
撫州府志、

毒菌

有毒菌ハ其數最モ夥多ナルヲ以テ或ハ別ニ有毒菌ノ印

毒菌ノミ壹冊トナシテ此草稿ノ附錄ト爲スモ猶ホ可ナルベシト雖モ斯ノ如キ法ニヨリテ菌ヲ區別シ置クトキハ單ニ有毒植物ヲ檢定スルニ際シ便宜ヲ與フルノミニシテ一般菌類ヲ探索スルニハ最モ妨ナラズ故ニ今有毒無毒ニ係ラズ凡ソ菌類ニ屬スルモノハ悉ク此草稿中ニ蒐集シ以テ一般菌類檢定ノ便トナス。就テハ有毒菌類ヲシテ瞭然

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』 請求記号 寄別11-9
ガラス使用

タラシメンガ爲メソノ最モ著名ナルモノニハ假リニ各
丁ノ見出シニ○符ヲ印シ置キタリ素ヨリ未ダ之ヲ
印セザルモノモ多カルベケレバ有毒菌ニハ悉ク○下アリト
思フベカラズ右下中ノ一二ヲ擧ゲレバ

有毒菌目錄

○ハイトリタケ　○月夜蕈　○テングタケ
○ベニタケ　○ヒラタケノ条
○ヘビタケ　○一本シメジ（シメジノ条）

右ノ各菌ノトコロニ就テ見ルベシ　明治廿三年九月伊澤記

毒菌

此菌ノ狀ハ天蕈ニ似テ稍大
ニシテ全體ノ色白ソノ蓋
ノ表面ニ淡黄色ノ毒粉ヲ
ツケ其肉ハ白クシテ堅ク
ソノ莖ハ長クシテ空虚ナリ
菌ヲ食シ泄瀉スル者アリ

菌傘ニ在ル云フ所ノ小疣ハ生ズル毒ノ大小ニ依テ其
○一本シメジト云フアリ形チ
サヽヨリ修ク
ナリ總テ蕈ニ似テ粘リ
ナキモノハ此菌類ニ多シ故ニ
ベカラズ

○此他毒菌類ニ多シ故ニ菌類ハ妄ニ食フ

○ベニタケ　蓋深紅ニシテ褶ハ白ク莖淡紅色ナリ
腹脂ノ如シ。毒アリ人食スレバ
或ハ吐血スル者アリ

毒菌

菌論上ノ2

○緑黴　此初黴ニ似テ毒アリ人ヲ殺ス

茎ハ稍白色ナリ

同

○天狗黴ニ在リ　蓋大ニシテ厚ク

黴ハ赤色上半黴ハ白色ニシテ半ハ黒色ニ変ス

アリ大毒アリ人ヲ殺ス

同

○月夜黴　半ヨリ

蓋ハ丸ク芝生ニ

傘物ニ多ク出ツ

生ス

陽山蘇ノ如シ　黴ハ赤色ニシテ

其ノ形色香黄黴ニ似テ毒

アリ猪ヲ殺ス

同

○光輝　燐ノ如ク夜ニ

大毒アリ人ヲ殺ス

○菌中毒　福岡縣ニ於テ

其(二十)ハ

ほど松の枝ニ

採ラレタルモノ

ナリシガ

次ノ中毒症ヲ

○菌中毒　福岡縣ニ於テ発生セル

落ノ如キ中毒大ニ流行セリ

次で煩悶狂躁譫妄

を現し後ニハ昏睡ニ陥リ

全身ニ発汗ヲ

全身ニ発疹肩背及手腕

ヒキツリシ如キ

も甚シク理線交牙等ノ悪候ヲ呈シ遂ニ死

毒菌

○余性菌ヲ癖嗜スル何ノ木ノ菌ニテモ無毒ノ木ヨリ生スル者ハ皆コレヲ採食フ伐リ株ノ古根ヨリ生スル者ハ其莖ニ一節アリ縦ニコレヲ裂クニ蓋ニ至マテ直理ニ分裂スル者皆食フ可シコレヲ裂リニ横ニ折レ及白汁出ル者ト柔脆破レ易キ者皆食可カラス必毒アリ又塩水ニ漬オキ漾キテ破壊セサル者皆食フヘシ毒アル菌及濕土穢物ノ化菌ハ皆煮漾ヲ経レハ破壊メ餡ノ如シコレヲ余カ親シク目驗スル所ナリ

遊相醫話

菌

按本草地生者為菌木生者為耨乃豆切海篇音坦又音淡江東人呼為蕈爾雅云中道菌郭云地蕈子也今人總呼名為菰其生深山爛楓木上小於菌而薄黃黑色味甚香美者為香蕈最為佳品其他或在樹或在地其種不一在地而生者多毒往往殺人凡煮菰宜切薑及投飯粒以試之薑飯黑則有毒不可食不黑食之無妨然本草注謂凡菌皆從五臟風壅經絡動痔病昏多睡背膊四支無力又多發冷氣大抵食之不益人也

一毒菌中毒療法ハ吐劑ヲ投シ
ヲ或ハ緩下劑ヲ投
法ヲ施スベシ又陰物
滑和ハ醫家ノ吐法ヲ宜
其毒ヲ以テ他ノ食
亜的児製劑ヲ與
胴和ス

菌の種類ハ色くあり毒のあるきかのハ食用ヨシて滋養多きか故ヨ味ひ頗る美ろれとも其有毒質の菌ヨ至つてハ或之を食する人をして目眩み魂飛ひ茫然その精神を昏耗(くら)(はう)せしめ或泣て已(や)ます笑つて止まらず見る所の諸物悉く轉倒せしと感せしむる等実ヨ其人の心氣を蕩然ありしむる而已ならず其甚しきヨ至つてハ即坐ヨ生命を殂(さ)さしめたるの例少からす現ヨ本月十三日刊行の讀賣新聞五百十八号の雜報ヨも下總の某が菌ヨ當てられ七轉八倒の苦しみて生命も危くありし冊波の某ハ夫婦諸共毒菌の爲ヨ即死せりと其有毒ある者の害あや実ヨ恐るべし

毒菌

セニー氏 植物學

失鳩茶菌ノ類
Orange Cigue (Agaricus Rubbosa, Pers.)
白色失鳩茶菌ノ類
Orange Cigue blanche (Agaricus nanus, Pers.)

此二ハ甚タ有毒ノ菌ニ殊ニ次ノ白色ノ小ナル形色總テ喬菌ノ食菌ニ似タリ如此ノ甚タ相類似スル(人ノ誤合スラ免レ)ヲ以テ因リ食菌ノ空養盛(丘ニ)ナルノ原ヲ起ス之ヲ食用ニ供スルトキハ区別スルニ困ム此毒菌ニ根ヲ包圍セル皮アリテ其環膜ノ周辺ニ小缺刻アリテ其蓋ノ剥離易キヲ以テ知ルベシ

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号 寄別11-9
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号 寄別11-9

ガラス使用

菌よ毒の有る無しを知るの傳

菌の種類よ色々あり毒のあるもの食用よして滋養多きが故よ味ひ頗る美なれども其有毒質の菌よ至ては或ハ舌を食するの人をして目眩(くら)み魂飛(たまとび)ひ茫然その精神を昏耗(こんもう)せしめ或ハ泣(なき)て已(やま)ず笑(わら)つて止まらず視る所の諸物悉く轉倒せしと感ぜしむる等實よ其人の心氣を蕩然ならしむる而已ならず其甚しきよ至つてハ即坐よ生命を殂(おと)さしめたるの例少なからず現よ本月十三日刊行の讀賣新聞五百十八号の雜報よも下總の某ゞ菌よ當てられ七轉八倒の苦しみて生命よも危くなりし舟波の某ハ夫婦諸共毒菌の爲よ即死せしと其有毒菌あるや實よ恐るべし

七三尺居りテ全体ノ色白ク形ハ柳ノ葉ノ如ク莖ハ円ニテ中ハ空ニシテ横ニ節アリ節ヨリ枝ヲ出ス枝ハ莖ニ似タリ時ニ莖ヨリ直ニ枝ヲ出スモアリ枝ハ莖ニ対セズ互ニ出ルモアリ其ノ形状ハ図ノ如シ此菌ハ毒菌ト思ハレ其ノ毒性ハ未ダ詳ニセズ

メツタニ取ルベカラズ

若し菌よ毒の有る無しを知るの法なくい疑えしき者ハ之を
食せざるの好きまハ如うざるべきも茲よ容易ある妙法の能
く其毒の有無を知る術ある柄(がら)ハ其善悪を謝別して好
き者ハ食ふることを本意ありまし
其法よく實よ容易ある性の知らぬ菌と雖うなる時ハ先つ
之を試みよ一文の銀銭と同じく煮其銀銭よ黒色を生ぜ
ん時ハ有毒の證とし食ふる勿れ其銀銭の色元の如くま
して少しも変ぜざる時ハ之を無毒として食すべし元來菌の
毒ハ硫黄氣(いうき)と金屬(かなけ)との結合よ係るを以て毒氣の銀よ觸
るゝ時ハ其銀の硫黄氣の為よいふーの如く成るよ依れり
温泉よ遊んで銀製諸具の黒くあらハ即ち此理あり今ハ菌

の澤山ある時節ありハ世人ハ此法を試みて不分ある菌の
性を知れ漫りよ菌を棄る事勿れ

因よ曰く菌毒の為めよ腸胃痛みを覚え瞳孔散大し
眩暈(めくらみ)搖頭(もだり)口渇(くちかわき)吐瀉冷汗身小満ちて精神昏耗(うはこと)妄語
口ふるへ發して已まざらんとする等の事ある時ハ早くも
吐劑を用ゐる又ハ下劑を服し毎氣をして胃中より
去らしむべし其法の最も簡便あるハ微温湯(ぬるまゆ)よ塩を入れ
て之を多量よ飲ましむべし忽ち吐瀉を促すの功あり
又灌腸法を行ふもよし

菌類ノ有毒鑑定法　（時事新報明治二十年七月三十五日）

○秋モハヤ半トハナリ初茸、松茸抔ノ菌類モ市場ニ出廻ル季節トハナリヌ、サレバ各地トモ日ヲ追フテ種々ノ雑菌モ発生スルフニテ毎年菌毒ノ爲メニ目眩ミ魂飛ビ茫然トシテ精神ヲ昏瞢（クラ）シメ或ハ泣テ止マズ、笑フテ止マズ見ル處ノ諸物悉ク轉倒スルガ如ク感ゼシメ一時人心ヲ錯乱スルアリ甚キニ至リテハ生命ヲ失フニ至ルフサヘアリ名モ知レザル菌類ヲ食セントスルニ能々注意セザルベカラズ依テ之ガ毒ノ有無容易ニ鑑定スル法アリトテ或人ヨリ報知ノ儘ヲ左ニ記サンニ先ヅ性ノ知レザル菌類ヲ採リ来ルトキハ一片ノ純銀ヲ取リテ煮（茹）ルベシ而シテ其銀ニ黒色ヲ呈セルトキハ有毒ノ性トシテ決シテ食スベカラズ又其銀ノ色澤依然トシテ變ゼザルトキハ無毒ナリト證スベシ元来菌類ノ毒ハ硫黄ト金属トノ結合ニ係ルヲ以テ毒気ノ銀ニ觸ルヽ時ハ其銀ハ硫黄色ノ爲メニ變色スルモノナリ若シモ菌毒ニアタリテ腸胃ヲ痛ムコトアル折ニハ速ニ吐瀉セテ腹中ヲ洗滌スベキ藥ヲ用ヒ早ク腸中ノ毒物ヲ掃下シ去ルニ

アリト云ヘリ」

（甲第　　按ニ右ノ従ノ農業雑誌第二十号ニ出ヅル従ヲ焼直シタルモノナラン）

○追々蕈の出る時節となりますからお心得の為め一寸記ま
せう去る二十日の事とか　栃木縣下安蘇郡越名村の河岸
ある／ある舩宿にて舟子等が四十五人ほど寄集り午餐
の菜にと俗に一本シメジと云ふ蕈を味噌煮ふして喰ひ
まだ一時間も立ないうちに三十五名はその毒に中つて吐やら
瀉すやらたつての苦しみを始めたので大騒ぎをして居る
處へ残り十名も家へ帰るや否や同様の大苦しみを同所の
病院から早速醫者が来られて夫〻治療されたから大概
ハ二ツない命を拾つたが内三名ハ今以て生死のほども知れぬ
よし　その毒物ハ現今試験中との事です

明治十六年九月三十日
東京繪入新聞

毒菌一本ふゞし

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号 寄別11-9
ガラス使用

第六毒菌中毒 松井修吉 岩手醫専

此症ハ其發スルヿ遲徐ニシテ大抵十時乃至十二時間ニ發スルヲ常トス故ニ之ヲ療スルニハ吐法ヲ施シ次テ下劑及ヒ注腸法モ又容易ニ施スヲ得ヘシ

療法吐法ハ吐酒石注腸法ハ蓖麻子油食塩其毒已ニ排除セシ後ハ醋及ヒエーテル製諸劑等ヲ與フヘシ

菌蕈食法

一　名稱を知らざれハ食ふへからず
二　性質を知らされハ食ふへからす
三　産地を知らされハ食ふへからす
四　調理を明よせされハ食ふへからす
五　臭氣あるものハ食ふへからす
六　老たる菌蕈ハ食ふへからす
七　篝(かゞり)火を放つものハ食ふへからす
八　風土に慣れされハ食ふへからす
九　季節よあらされハ食ふへからす
十　精神爽快を得されハ食ふへからす

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号 寄別11-9
ガラス使用

治菌毒

四明溫台閒。山谷多產菌然種類不一。食之閒有中毒往往至殺人蓋蛇毒氣所薰蒸也有僧教猺地以冷水攪之令濁少頃取飲皆得全活其方自見本草枫樹菌食之笑不止俗言笑菌居山閒不可不知此法也

註　凡菌蕈如夜中有光者欲闚無蟲者煮不熟者煮汁照人無影者上有毛下無絞者即卷赤色者俱毒殺人飲水地漿及糞汁可解中笑菌毒飲冬瓜蔓汁解之或苦菜白礬勻新汲水拼四解胡蔓草解釣吻毒亦用此法解毒菜治菌毒亦用此法

毒菌

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号 寄別11-9

ガラス使用

（）蕈中毒　群馬縣報告　群馬縣上野國　利根郡　沼田町眞宗平等
寺住職　井上音暢　妻萩野（五十年）　仝人娘セン（二十五年）　仝長男千代
磨　妻ヨネ（三十一年）　仝雇人野畑總藏（四十六年）　清光多平（四十年）　仝人
妻某（三十年位）　八去月十七日午前七時頃（カタハ）ト称スル蕈ヲ食シ
中毒ニ罹リ吐瀉数回ニ及ヒシカ醫療其功ヲ奏シ全治シタリ
明治十七年十月七日　　官報

（）中毒患者

石川縣鳳至郡鬼屋村木屋忠太郎（七年）仝キヨ（三年）八本月三日午前七時方言ヒツスイ」ト唱フル菌ヲ食セシカ忠太郎ハ翌晝午前六時頃卒然頭痛發熱シ吐瀉數回ニ至リ舌上赤苔腹微滿シテ煩渇ヲ爲シ煽衝熱ヲ發シ目下治療中キヨハ仝時頃卒然吐瀉ヲ起シ脉搏沈微頭部熱シ顳顬動脉頻數ニシテ咬牙搐搦シ爲ニ煽衝熱ヲ發シ腦ニ關渉シテ腦痙攣症ヲ發シ同六日午前十時死亡セリ又仝縣仝郡中野屋村神村甚藏高島孫吉（各八年）八去月三十日午後一時檪實ヲ食セシカ忽チ痛頭劇甚吸牙搐搦等ノ痙攣症ヲ發シテ手足厥冷顏色蒼白唇色黯紫色ヲ呈シ精神鬱昏シテ一時死状ヲ見ルニ至リタルモ幸ニ治療其ノ効ヲ奏シ

壽蘭

同日午後十時ニ至リ諸症鎮静シテ快復セリ

明治十七年十月二十日　　官報

○兵庫縣摂津国八部郡荒田村平民溝内源五郎及家族四名ハ去月十五日俗ニ蛇蕈ト唱フル菌ヲ一斤ヲ煮テ食セシカ二名ハ食後直ニ吐瀉シ尋イテ熟眠シ二三時間ヲ経テ輕快セリ他二名ハ初期ヨリ興奮シ恰モ狂人ノ如ク叫ヒ舞イテ麻醉ヲ来シ昏睡状トナリ之ヲ起呼スルニ一時感應スルモ言語ヲ發スル能ハス食後二三時間ヲ経ル後醫之ヲ診シ硫酸銅吐劑或ハ甘汞下劑等ヲ投セシニ二三時間ニシテ其効ヲ奏シ次第ニ熟睡シ二日ヲ経テ全治セリ

明治十七年十月二十日　　官報

○中毒患者

三重縣紀伊国南牟婁郡賀田村平民木梨國由助及妻貳児ハ去月廿六日和歌山縣下紀伊国西牟婁郡近露村通行ノ際同村松本鉄次郎宅ニ於テ休憩中俄ニ發病セシニ付該村醫師速ニ出張シテ之ヲ診察シ全ク中毒症ト診断セリ其原因ハ「ハリ蕈」（本郡山中樅梅ノ樹下ニ生ス形松蕈ニ類シ纖ノ外部ハ淡黒色ニシテ刺アリ山椒ノ刺ノ如ク裏面并ニ莖幹ハ共ニ白色細刻アリ）トタフノ茸（本州綱目ニ櫰木トヲ食セシニ在リ初同人ハ仝日午后二時右兩品ヲ蒸焼シ味噌ヲ和シ妻児

毒菌

ト共ニ之ヲ食セシニ食半ニ至リ頻ニ唾液分泌シ手足ノ指皆痲
痺シ次イテ眩暈ヲ發シ惡心嘔吐須臾ニシテ手足厥冷全身
冷汗脉膊極メテ沈微痙攣シ終ニ昏睡スルニ至ル是ニ於
テ百方醫術ヲ盡セシニ幸ニ其効ヲ奏シ二男由之助(三年)ハ仝
夜九時比ニ至リ妻ツネ(三十七年)ハ翌廿七日午前八時比ニ至リ少
シク人事ヲ覚エ由助(三十八年)長男定之助(十年)ハ正午比ニ至リ
漸ク醒覚シ言語殆ト常ノ如クナリ廿八日ニ至リテ右四名共全治
セリ(八月十六日附和歌山縣報告)

明治十七年八月二十六日　　官報

○菌毒　愛媛縣下伊豫國温泉郡小唐人町一丁目平民伊賀久
次郎同人母いま同妻ふさ同男寅次郎の四名八去十月十六日　方言
「薮ーめど」と唱ふる菌を求めて晩餐の際豆と混煮して之を食
せしに一時間餘を經て胴部頻ろ苦痛を覚へ尋いて吐瀉す
ると雖ども依て醫師の治療を受しより幸ひ翌日より至り盡平癒
したり菌の煮汁を掛けたる飯を飼猫に與へしに食後大に
苦悶の状を呈せりと云ふ是全く中毒の故なるべし　又同國同
郡湊町四丁目平民仲田嘉平與村勇三郎高橋權平の三名八
方言(薄手ーめど)薮しめどと云ふも同種類なり)を称する
菌を食し其後胃部ヨリ微痛を覚へたりと以て賣薬等を
服用せしも其効なく追々劇痛を發し四肢厥冷申ス

痲痺状を呈するものあり吐瀉止まず依て醫師
を招きて治療を受けしに二時間ばかりして吐瀉漸次弛緩
し日ならずして平癒したり又同月二十一日同国同郡小唐人
町一百十民野村源三郎方にて「めひ菌」前記の毒茸同物を以て
煮て老婆小娘を共に食せしに本人は須臾にして吐瀉数十
回手足厥冷脈搏沈微なるに至り醫師の治療を受
けしも日ならず平癒せり但し老婆小娘も一時吐瀉せ
しが軽症にて翌朝に至り平復したりと

明治十六年十月廿八日　穀知新聞

○竹蓐中毒（和歌山縣穀告）和歌山縣下伊都郡橋谷村眞言宗
西福寺ニ於テ法會執行ノ際午餐ノ料ニ供セシタメ竹蓐（方言
「ヤブタケ」ト唱ヘ全体紫色ニシテ少シク白色ヲ帯フ）二十個（此ノ量凡
百六十目ト午房ル五百目トヲ精米五升ニ混煮シ廿人ニテ之ヲ喫
シタルニ其内同村農田宮辨藏門舟井兵左衛門山田嘉一郎塙平清
兵衛黒岩ノブ田宮甘之助塙平權三郎ノ七名中毒症ヲ發シ早
キハ一時間晩キハ二三時間ヲ經テ頻ニ嘔吐シ激烈ナル腹痛ヲ
發スル者アリ又ハ單ニ腹痛ヲ起ス者アリ其輕キハ頭痛眩暈ヲ
覚ユル者アリ午后八時頃ニ至リ皆全愈セリ

明治十六年十二月二十日　官報

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号　寄別11-9
ガラス使用

○權現蕈中毒　富山縣報告　昨年十月二十八日富山縣上新川郡古上野村寶林寺ニ於テ法會ノ際權現蕈（一名コウヅル）ニ豆腐ヲ交セ食シタルニ食者二十三人中二十二人一人ハ年來中風症ヲ患フル老翁ニシテ其毒ニ感スルヤ最微ナリトイヘドモ劇シキ苦痛ヲ生シ嘔吐スルコト甚シキモノハ六七回輕キモノ一二回ニ及ヒ凡四時間ニシテ平癒セシカ此蕈ハ其全体平蕈ニ似テ表面栗色ヲナシ莖太ク短ク裏面ハ白色ニシテ筋アリ日ヲ經ルニ隨ヒ表面淡黒トナリ周圍ニ白色ヲ帶フ最大ナルモノハ徑六七寸肉厚ク暗夜ニ光輝ヲ發スル故ニ此ノ名アリ樵夫等ハ有害物トシテ特ニ取ラストイフヲ試驗スルニ右ノ結果ヲ得タリ

明治十七年一月八日　官報

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号 寄別11-9
ガラス使用

●天狗茸の中毒

二人は死し一人は危篤す

茨城縣鹿島郡輕野村大字溝口池口喜七方に於て本月二日午後七時頃夕食の際此日同人妻ゆう(三〇)が同地臺山と稱する山林中にて取り來りし天狗茸(一名蠅取茸)五六本を汁に入れて食したるに翌三日曉方よりゆうを初め喜七の次女くに(二)喜七の母しげ(七)の三名が俄に腹痛を催すとて苦しみ始めしより喜七は大に驚き早速峰間醫師を迎へて診察を請ひたるに全く天狗茸の中毒と知れ應急手當を施したるが四日午前七時頃に至りゆうも死亡し同夜十二時に先づ死亡同夜十二かるべし」

笑菌　玉蕈ニ似テ稍大ニメ雪白傘下褶畳支アリテ長柄

咲之笑フテ不正南方ニ生ス又近村ノ人無名ノ白蕈ヲ食シ笑フ甚シ是亦笑菌ニメソノ毒ニ酔ナリ有ニ人云予嘗テ試ニ食メ只泄瀉悪頓スルコトヨルナルベシ笑菌ノ事博物志五雑俎等ニモ見エタリ

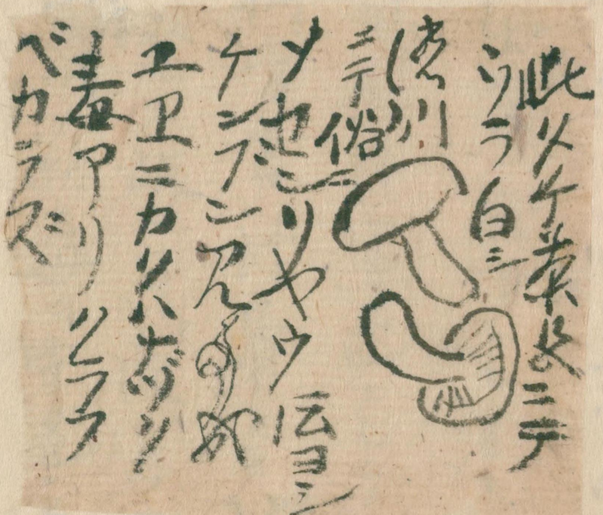
○握蕈　秋月樹下陰處ニ生ス器類ニ香蕈肥大ソノ面栗殻色白點アリ高脚ニシテ根長シ山人或ハ取テ

一握ヒ雨傘ヲタヽムカ如シノメ火ニ炙リ食ス故ニ握蕈ト
名ヅク此即蝿取菌ノ類ナレハ有毒妄ニ食スヘカラス
○土茸或云コレ清人ノ谷稱ナリ處々山野ニ極メテ多シ五月
六月ノ間喜テ茅芒ノ根ニ生ス一根ニ莖形釵股ノ如ク枝葉ナ
シ高キ者不過尺其色浅紅或ハ白ヒ莖端一花ヲ傾開クソ
形阿蘭細斗ノ如シ俗因テ名トス或ハ以為草蔻者恐ハ
非ナラン○松王兒蕈所在松樹朽腐ノ處ニ生ス大ナルハ
箬笠ノ如シ面黄褐色傘下淡色ニメ浅褶目ニ乾カシ
煮食スレハ久潟ヲ止ム生乾共ニ韻味佳ナリ他方ニ松王兒
ト稱スルハ形此レト殊ニ異ナリ

豆州 志稿

名未詳毒菌

秋月雑樹林間ニ生スル小菌ニシテ莖微硬ニシテ破砕シ易カラ
ス莖ハ白色ニシテ微緑ヲ帯ヒ其根脚尖リテ他菌ノ概子圓形
ナルト異ナリ蓋ハ淡黒褐色裏ハ灰白色ニシテ光澤アリセラ
採リテ二時間斗リヲ経レハ黒色ニ変ス全性菌ヲ嗜ム今
秋始メテ此菌ヲ採ル味ヒ美ナラスト雖モ亦食フ可キカ如シ食
後頻リニ睡ヲ催シ睡眠スルヿ数刻ニシテ忽チ悪心嘔吐
ヲ発シ大渇引飲泄瀉教行而メ腹痛無シ猶ヲ睡ラント欲



入全食ノモノ四人皆然リ因テ此菌ノ毒性アルヲ知ル故ニ之ヲ図画シ以テ他日ノ参考ニ備フ

明治十七年十月

大神輿足誌

毒菌追補

ねとがりなど 假

豊後其他九州ニ生ス秋月山林ニ生ズル小菌ニシテ傘ハ直タ脆軟ナラズ莖淡白微緑ヲ帶ビソノ脚尖リテ他菌ト異ナリ

蓋ハ淡黒褐ハ次白昼亦毒菌ニシテ食後頻ニ眠ヲ催シ頃刻ニシテ多忽チ悪心吐嘔頻渇引飲泄瀉敎行腹痛無ク猶睡眠ヲ欲シテ止マズ往々ソノ中毒ノモノアリテ未ダソノ死ヲ見ズト雖ドモ亦畏ルベキ毒菌ニ

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号 寄別11-9
ガラス使用

月夜蕈　ドクタケ

此蕈九月ニ多シ平原茅蕈ノ類一ナラズ蘑ニ生ジ或ハ栗等ノ朽木上ニモ亦生ズ或ハ樅栂等ノ樹下ニモ生ズ形

松蕈ニ頗ル似タリソノ蓋ノ外部淡黒色ニシテ針アリ山椒ノ刺ノ如シ故ニ紀州方言針蕈トモ称ス

茎ハ白色ニシテ夜間光ヲ発ス故ニ月夜ノ名アリ又ヤスケダケトモ称ス是普時山ニ入ノ此毒ニ中ル者ノ

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号 寄別11-9　　ガラス使用

名ヅケシ（ノ中毒ノ症ヨリ先ニ脳ヲ或ハ吐瀉シ精神昏昧シ
砂ヲ噛ムガ如キ木沖茶精菓錦嚥ヲ市飯魚街鼠ノ産ヲ
或ハ轉展反側シ支離冷指頭麻痺終ニ斃ル（
者アリ）
者アリ）キニシテ先ヲ免ルル者モアリ又猫犬等ニ
ニ中ルモノ多シ和方ニ此中毒劇症ニ
シテ験アリト云ヘリ此毒菌繁種ノ一ノ形状ト産地
等ノ一様ナラズ品モノ又

一毒菌中毒療法心吐剤ヲ（従来
或ハ経テ下剤ヲ服シ又清腸法ヲモ施シ吐法
ハ吐酒石ニ（代用）シ清腸ハ蒟蒻麻油食塩ヲ用ヒ毒
（ヲ）排泄セシ後ハ酢又亜的児製剤ヲ与ヘ調
和ヲ（蓄）又和方ニハ梓皮ヲ煎服シテ験アリトス

其他（消）毒アリ雑症ニ老錬者（ノ）実験
加フルニ日新ノ（鉄）剤ヲ（而）以テ徒ニ仕メヘシ
ムル（ヿ）勿（レ）ト（ヿ）ヲ（ヘシ）

一或ハ祝ニ
ル、ン菌類ハ、モレノ生食ヲ試ミテ辛味アルモノハ必
ス毒アリ苦味アルモノ其次甘キモノハ無シ
トス

大毒物ノ菌ト雖モ食フ人ノ性質ニ因リテ亦ソノ害ヲ見ザ
ルモノアリト云多キ時ハ数斗ニモ及ブ如キ毒物ヲ食スト雖モソノ
毒ニ酔タルノ外絶テ無キノ例アリ今普物語ニモ此説アリ
毒菌ノ形松蕈ニ似テハノ稍赤色ヲ帯ブモノ喜テ之ヲ食ス
ヒ脳暈始ンド酔フガ如ク動時ニシテ笑ヲ発シテ不止一時許
轉倒シテ起ツ能ハズ口ニ粘涎ヲ吐ク磨刀汁ノ如シ後数
日ニ漸ク又平常ヲ経テ漸ク醒ムルヲ同食スルノ中酒
家一人アリ其状更ニ平常ニ異ナルノ無シ此中毒ノ
説医勝ニモ亦見エ

毒菌無毒菌ノ質問

神奈川縣北多摩郡谷保村ニテ戸主遠藤萬右衛門ノ始メ長男某妻某又ハ同居人某ハ十月中旬菌ノ中毒ニ罹リテ死セシトスル現品ヲ以テ其性分ノ分析ヲ乞ハント欲スレ𪜈今該品ヲ存ゼザレバ之ヲ乞フニ由ナシ畢竟衛生法普及ノ日ニ於テハ敢テ必要ヲ感ゼザルモ今日ノ場合ニ於テハ其何タルヲ知ラザルヨリ斯クハ中毒ノアリシナランヲ乞シバ該品ノ食用ニ供セン者又ハ供スベカラサル者ノ種類ヲ御調査御示シアランコトヲ乞フ

神奈川縣會員　本田定年

同應答

未ダ一般ニ有毒菌ト無毒菌トヲ識別スル適當ノ標徴ヲ

審事委員　山崎元脩

得ズト雖モ臭味ニ由リ略ボ其主毒否ヲ鑑定スルヲ得ベシ即チ
濕性ニ臭若クハ苛烈蔬菜ノ腐敗ノ臭ニ
辛辣物ノ如キ或ハ蕪味若クハ不快ノ味ヲ有スル者ハ毒
性ナルカ將タ疑ハシキ者ニ傷シ香竄性ニメ胡椒或ハ酸
麪又ハ大蒜(ニンニク)根ノ如キ臭氣ヲ帶ブル者ハ良好無毒ト
ス要スルニ乾令ハ試ニ菌ノ一片ヲ口内ニ入シ直チニ苛烈
不快ノ味ヲ呈スル者ハ此ヲ毒菌ト做セリ又其色相ニ就
テハ更ニ之ガ正徴ナシト雖青黄色或ハ暗赤色ナル者或ハ
之ニ觸ルヽ後直チニ青色ニ變ズル者多クハ疑ハシキ者ト
スヘシ白色或ハ淡黄色ニシテ硬固乾燥シ容易
ニ破潰ス可キ者多クハ食用ニ供スベシ日本ニ於テ只經驗

上ヨリ有害タルヲ知ルモノハ左ノ如シ

ニヲタケ	カワタケ	ウシ	ウス
タケ	胭脂蕈	サルマツサタケ	天狗蕈 蠅取苔
アシタカシメジ	モトフトイグチ	トフイ	
ダケ	黒イグチ	ヨコイグチ	ハイノブス
アワタケ	マガソタケ	スクモタケ	テツハ
レコモタケ	タメリ	カキシメジ	

以上二十一種ノ他尚ホ毒有ト雖食ス可カラザル者多
クアラン尚ホ未タ記載セシ書ヲ発見セズ依テ之ヲ知ルニ由ナ
ケレバ答辨ノ不完全ナルヲ怨セラレンコトヲ乞フ

大日本私立衛生會雜誌 第三十二號

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号 寄別11-9
ガラス使用

醫科大学教授 下山順一郎氏講演

有毒植物ノ部分東洋學藝雜誌、中拔萃

前略又手萃ノ事ニ就イテ申シマセウ萃モ委シク申スト長イノデアルカラ簡單ニ述ベマセウ萃ハ有用デ采シテ食ベマス害ナラス萃ハ良好ナル食物ト看做シテ宣イ先ヅ食シテ體ノ養ヒドニナルコトハ殆ンド肉ニ伯仲スルト言ヒ過ギルガ先ヅ肉ニ次グ位デアリマス其レハ何故カト云フト凡ソ食物ハ燃燒體ト成形體トノ二ツニ分チマシテ燃燒體トハ燃ル體ト云フノデ燃ユル本云

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号 寄別11-9

ガラス使用

體ト云フノハ食物ノ中デ體温ヲ保持スルモノデ總テ温ヲ生成スルノ用ヲナシ又成形體ト云フノハ肉ヲ殖ヤシ滋養ニナルモノデアル人間デ言ヘバ其ノ身ヲ營養セニトヲスルニハ燃焼體ト成形體トヲ喰ハナケレバナラヌノデアリマス併シ此二物ヲ喰フニモ比例ガアリマシテ燃焼體バカリ喰ツテモ成形體バカリデモイケマセヌ例ヘバ燃焼體ヲ五百匁喰フ時ニ成形體百匁ヲ喰ハナケレハナリマセン燃焼體ト申スハ早ク言ヘバ米麦ノ類デ有リマシテ成形體トハ肉類玉子ノ類デ米ナド

ハ皆ニ燃焼體ヨリ出來テ居ルモノデアリマス成形體モ含ンデ居リマスガ僅デアリマスガ成ルモノデ動物獣肉類ハ主ニ成形體ヨリ成ルモノデ社會ニ取テハ要用ナモノデ有リマス東京ヤ繁華ナ所ニ住ム方ニハ草ナドハ緊要デ無ニガ寒村僻邑ニ住デ貧困ニシテナカナカ肉ヤ魚類ナドヲ喰フコトモ出來ナイ者ニハ草ハ緊要ノ物ト思ハレマス如何トナレバ草ハ山中トカ森トカニ生ヘルモノデ有マスカラ加之草ト云フモノハ近來ナカナカ需用ガ多クナリ年々輸出スル様ニナリマシタ子ハ

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』 請求記号 寄別11-9
ガラス使用

百七十一等から段々に椎茸
加支那に多くなりまして現今は年々凡そ
十萬円内外の椎茸が輸出さ
れ従て日本に於て茸の培養も盛にシナケレ
バナリマセヌ日本デハ茸ノ培養ハ椎茸に止
マリマシテ御存しの通り松茸トカ「しめじ」ナ
ドハ作リマセヌ此ハ試シタメシ
遠分椎茸ヲ extract シ如ク人工
出來やうト思ヒマス芋ヤ大根ヲ作ルノト同
シ様ナモノデ有マセウ一例ヲ擧ゲマスニ
ウロッパデ貴重ニハ茸が有リ
マス此ハドイツ

デモフランスデモシヤンピニヨントイフ
テン語デアガリクス、カンペストリスト云ヒ
マス私モ二週間バカリ前ニ本郷ノ大学ノ裏
ニ這入テ採リマシタガ(今日ハ生ヘテ居リマ
セヌガ)向フデハそれヲ培養致シテ居リマス此
ノ茸ハ清潔ナ處ニハ有マセヌ大抵牛馬ノ糞
ヲ積ンダ處ニアリマス
茸ニモ尋常ノ植物ノ様ニ種ガアリマスソレ
ハ植物学家ノ所謂種トハ少シ違ヒマスガ先
ヅ種ト同ジ様ナモノガアリマス茲ニ一種ノ
茸ガ有マシテ莫傘部ノ横ニ切リマスト猶ホ

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』 請求記号 寄別11-9
ガラス使用

様ニナリテ居リマス之ヲ顕微鏡デ見マスル
ト糎ガ二ツ三ツ、クッツイテ居ルモアリ又四
ツ五ツ附テ居ルモノモ有リマス之レヲ集メ
テ蒔クノハムヅカシイ私ガ西洋デ見マシ
タノハ先ツ長サ一間ニ幅三尺バカリノ箱ヲ
拵ヘ其ノ中ニ一尺ホド馬糞ノ腐ッタノヲ入
シ其ノ上ニ其苺ノ能ク熟シタルモノヲ細カ
ニキザミテ撒布シ馬ノ
ニ凡ソ十日カ十五日タ
ニ白イモノガ出来マス苺
ヤシヲ乾カヌ様ニスル
ト四週間カ五週間デ

苺ガ出テ来マス此ノ通理デ見マスト推苺ナ
ドハ日本デ作テ居リマスガ之ニヤシク改
良シカヘタナラ一層能ク出来マセウト思ヒ
マス
日本デハ松苺ハ只天然ノモノヲ收穫致シマ
スガ苺類ハ各々性質ガ違ッテモノデ其地味ニ
適スル處ニ生ヘルモノデ松苺ノ生ヘル處ハ
定ッテ居リマス莫松苺ノ生ヘル處ニ詑テ今
年松苺ガ生ヘマスト見シヲ取ラズニ置テ莫
土ヲ持テ来テ追陽ノ土ト交ゼ時々灰トカ白
水ヲカケテ遣キマスト翌年松苺ノ出来ル時

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』 請求記号 寄別11-9
ガラス使用

期ニ至レバ澤山ノ松茸ガ富ニ作ル通リニ由
来マセウト思ヒマス試ニ見タイト思マス
ガ東京近傍ノ地味ニ適シマセヌ幸ニ京都等
ノ松茸ノ出来ル所デ有リマスカラ左様ナ所
ノ御方ガ他日御研究ナッタラ必ズ好結果
ヲ得ルコトト思ヒマス

因ニ云ッテシヤンピラン）ハ清國ニ於テハ
蒜蒻ト云ッテ至極ル味アルモノニシテ火蒜
菰蒜菰素菜蒜菰湯等ノ料理アリ本邦ニ於
テモ之ヲ培養アリテ普ク食用ニ供センコ
ヲ當路ノ人士ニ企図アランコトヲ望ス
ル處ナリ

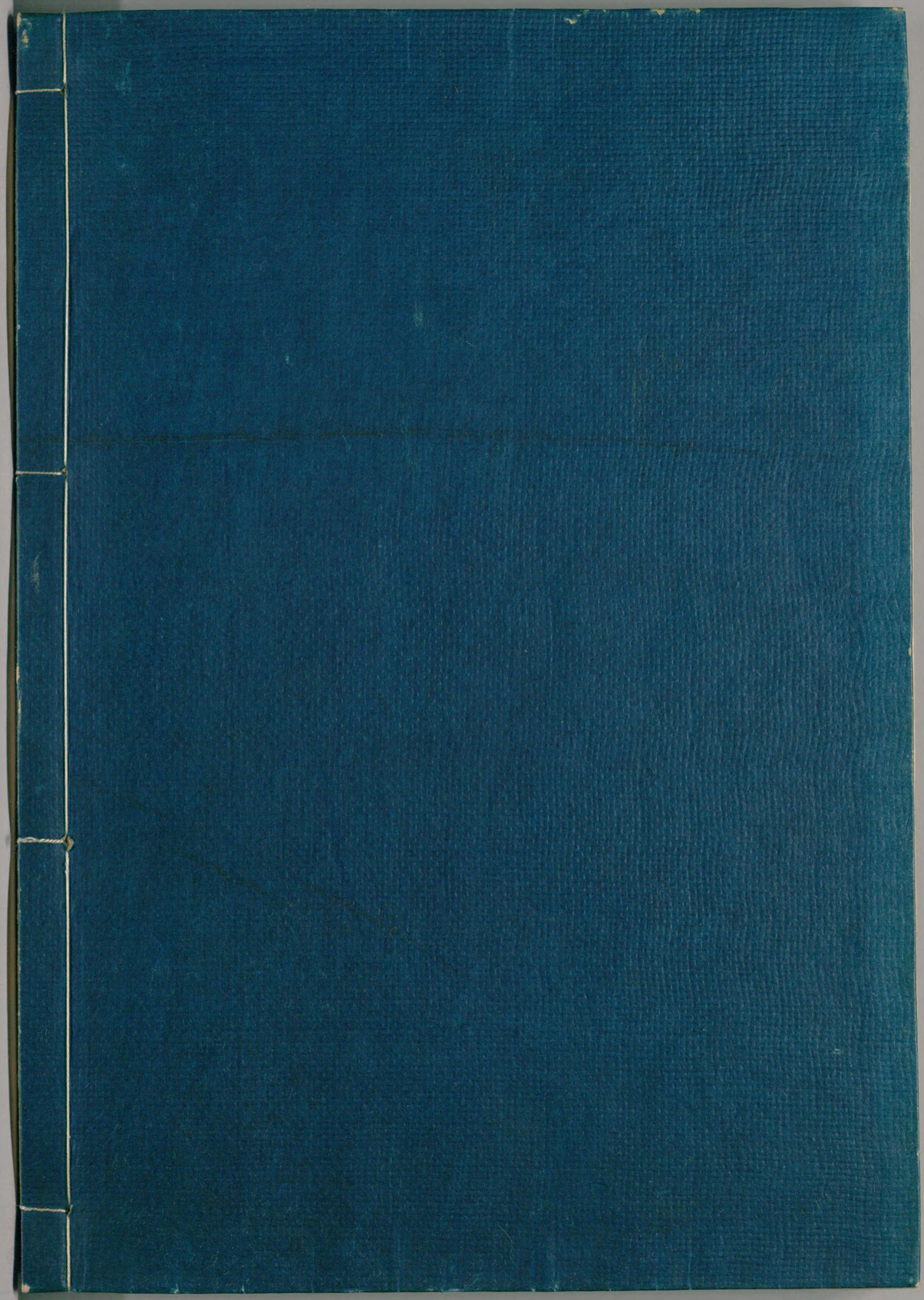
忘丁鹽梅

第廿四條

96
別11
13
9

国立国会図書館　タイトル『錦窠菌譜』 請求記号 寄別11-9

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『錦窠菌譜』　請求記号 寄別11-9

ガラス使用